

消防団長紹介



松原市消防団 団長 芝池 優

昭和30年2月、前2町3村が、町村合併促進法により合併して、府内21番目の市として、松原市が誕生しました。松原市は大阪府のほぼ中央に位置する人口約12万人の都市です。広さは東西約5.8km、南北約5.1kmで面積は約16.6km²のほとんどが平坦地で、生活に便利なまちとして発展しています。特産品として、豊臣秀吉が好んだという逸話の残る「河内合鴨」や、日本のネギのルーツと言われる「難波ネギ」、松原市のオリジナルブランド“まったく愛っ娘～松原育ち～”の野菜などがあり、有名な飲食店でふるまわれています。また、大阪初のセーフコミュニティ国際認証都市として、平成25年11月16日に認証され、平成30年11月には再認証を取得しました。今後も各関係団体との協働の仕組みを活かし、世界基準の安心・安全なまちづくりを進めていきます。

大正元年7月、松原市域の松原村、天美村、布忍村、恵我村、三宅村の各村に「消防組」が発足されたと記録に残っており、これが松原市の消防団のはじまりです。その後、昭和14年4月、松原市域の「消防組」は時代の変遷とともに「警防団」へと改組されました。「消防団令」が制定されたことにより「警防団」から「消防団」へと改組し、昭和30年2月に松原市が誕生したと同時に、「松原市消防団」が誕生しました。当初は、旧各町村の5つの管轄区域に分けられ、5分団として編成されていましたが、昭和32年4月に管轄区域が広がったことに伴い、新たに第6分団を設置、6分団編成し、現在に至っています。松原市域の消防組が誕生して「100年」が経過し、松原市消防団としても平成27年2月に発足60周年を迎えています。

私は、昭和54年9月1日に松原市消防団に入団。班長、部長、副分団長を経て、令和2年4月から副団長へ昇任し、令和3年4月1日からは消防団長に就任しました。これまでは昭和56年に受章した松原市長表彰精勤章をきっかけに、近年では平成30年には消防庁長官表彰永年勤続功労章、令和元年は藍綬褒章を受章、実績が認められ現在に至る消防団歴41年間で「18」もの表彰を受章しています。

消防団活動で記憶に残っている出来事は、平成6年に横浜で開催されました第14回全国消防操法大会のポンプ車の部で2番員として出場できたことです。肌寒い2月より訓練が開始され、当時年齢が38歳であったことから予備員の1番員として訓練を行っていました。ところが5月の連休明けに正の2番員に不具合が発生し急遽この番員を担当することになりました。周りは初の全国大会出場との期待で熱気が凄く、あとには引

けない状況の中、身体にムチを打って無我夢中で74回の全体訓練と日々の屯所訓練を重ね、全国大会へ出場を果たすことが出来たことです。

私の好きな言葉の一つに、松尾芭蕉の「不易流行」という言葉があります。言葉の意味は、「不易」いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、「流行」新しく変化を重ねているものを柔軟に取り入れていくということです。これを消防団に置き換えると、「不易」は、地域に密着し奉仕の精神と規律厳正な行動をもって住民の生命と財産を守ること、これは時世の如何なる変化の中でも変わらない本質の部分ではないかと思えます。

また、「流行」は、近年益々被害が拡大している風水害や、発生が危惧されている南海トラフ地震、私たちの想像や生活様式を一変させた新型コロナウイルス感染症等、このような様々な変化に対しても決して狼狽えることなく、「まさか」に対して備える心の準備と日々訓練を怠らないことではないかと思えます。

今後も「不易流行」を常に心に留め置き、地域住民の皆さんに信頼される消防団であり続けることが私の使命であると思えます。